

地域別構想の見直し(素案)について

1. 東部地域の期間前半の検証

1) 地域の概況

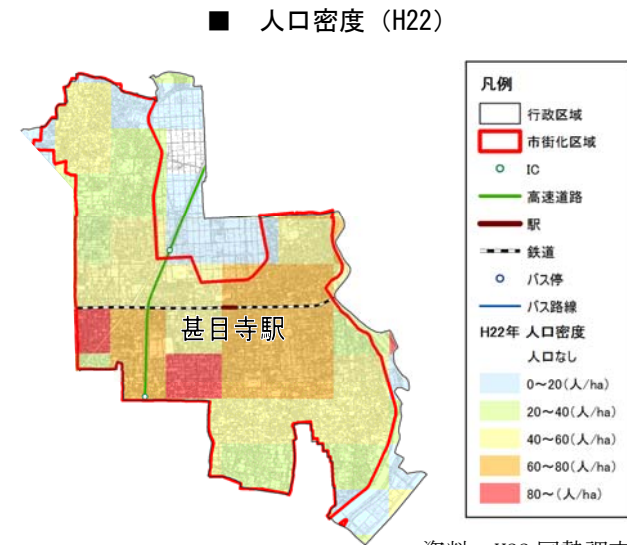
①人口・人口密度

- 東部地域の人口は5年間(H22~H26)で約830人増加している。
- 人口密度は、甚目寺駅及び七宝駅周辺が高く、60人/ha以上が維持されている。

■ 人口(東部地域)

参照データ	住民基本台帳	
	H22.4	H27.3
東部全体	40,373	41,204
市街化区域内	40,126	40,992
市街化調整区域内	247	212

※平成27年度の国勢調査結果(小地域集計結果)は、未公表のため、住民基本台帳人口で比較しています。

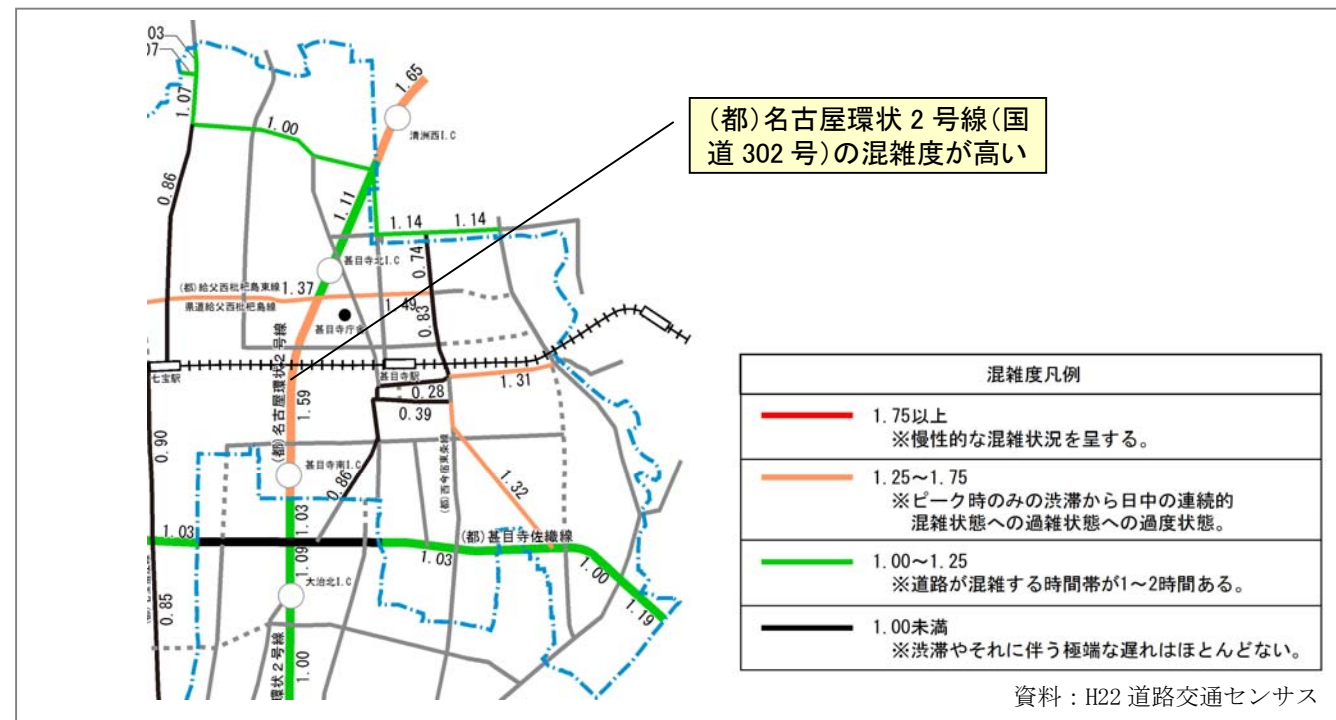


資料: H22 国勢調査

②自動車混雑度

- (都)名古屋環状2号線(国道302号)の自動車混雑度が1.59となっており、南北広域幹線軸や周辺道路において、常時渋滞が発生している状況である。

■ 自動車混雑度(24時間)



2) 市民アンケート結果

- 現在のまちづくりについて、不満度が最も高い事項は「鉄道やバスなどの公共交通機関」で、次いで「下水道・排水路の整備」、「商店街の活性化などの商業の振興」となっている。
- 今後のまちづくりについて、最も重要と考える事項は「地震や水害などの防災対策」で、次いで「下水道・排水路の整備」、「鉄道やバスなどの公共交通機関」となっている。

平成28年度調査結果

[現在のまちづくりについて]

不満度 上位5つ	
1	鉄道やバスなどの公共交通機関
2	下水道・排水路の整備
3	商店街の活性化などの商業の振興
4	公園・緑地の整備
5	企業誘致などの産業の振興

[今後のまちづくりについて]

重要度 上位5つ	
1	地震や水害などの防災対策
2	下水道・排水路の整備
3	鉄道やバスなどの公共交通機関
4	交通安全・防犯などの安全対策
5	介護サービスや生きがいがづくりなどの高齢者福祉

資料: あま市「あま市総合計画後期基本計画策定等に関するアンケート調査結果報告書」H28.8、問10、問11の結果
 注: 甚目寺地区居住者の回答結果

3) 期間前半の主な重点施策の実施状況

■ 甚目寺駅北口駅前広場 (H25.4 整備完了)



■ 新たな市民病院の整備 (H27.11 新築移転完了)



■ 下水道事業の実施(H22~)



- 甚目寺駅北口駅前広場の整備や市民病院の新築移転、下水道供用区域の拡大整備等を順調に実施しており、甚目寺駅を中心とした「街なか居住拠点」やその周辺における都市基盤環境の強化が進んでいる。

2. 期間前半の地域づくりの評価と後半の地域づくりの重点

東部地域づくりの目標「人と人の交流による、利便性の高い快適な住環境のまちづくり」に向けて、甚目寺駅北口駅前広場の整備など期間前半に取り組んできた施策の実施効果により、「街なか居住拠点」を中心に、順調に人口が増加しており、都市機能の維持のための人口密度が保たれています。

東部地域については、道路交通の要衝として、周辺地域から交通が集中し、人・モノの交流が拡大するなど活力が創出されている一方で、主要な交差点では、交通渋滞が発生し、その解消が大きな課題となっています。

また、歴史ある甚目寺観音や門前町などの観光資源を活かして、更なる地域のにぎわい活力の創出につなげるため、甚目寺駅の利便性向上や空き家（店舗）の利活用など、計画的な土地利用等を一層推進するとともに、防災上の観点から密集市街地における狭あい道路等の解消を図る必要があります。

3. 全体構想の見直し項目のうち、東部の地域別構想にも反映を要する事項

『土地利用』

- 雇用機会の創出や適切な工業用地供給のための「産業誘導ゾーン」（工業立地）の追加

『道路・交通』

将来交通ネットワーク

- リニア開業等を見据えた鉄道駅から市内各所へのアクセス性の向上
- 広域的な人口の交流の拡大や広域幹線道路網の整備推進

市民生活を支える公共交通体系

- 高齢化の進展等を見据えた公共交通体系（生活）の確保
- 「街なか居住拠点」「防災・活力連携拠点」間を結ぶ公共交通の確保

『防災』

- 大規模地震対策、都市防災機能の強化

4. 主な方針の見直し内容の検討等

「期間前半の東部地域づくりの評価と後半の地域づくりの重点」、「全体構想の見直し項目のうち、東部の地域別構想にも反映を要する事項」を踏まえ、地域別構想に位置付けられた方針・重点施策の推進を引き続き進めるとともに、以下の拡充・追加を行います。

■ 拡充・追加するポイント ※マスタープランの構成に従って整理

〈土地利用〉

- ❖ （都）名古屋環状2号線沿道の位置付けを見直し、工業や流通業務施設の計画的で適正な誘導を図る【**構造図《①》追加**】【**施策図《①》追加**】
- ❖ 空き家の利活用等を推進し、市街化区域内での土地利用の流動化を図る【**施策図《②》追加**】
- ❖ 鉄道高架化に関する検討を加速させるとともに、甚目寺駅南口等における市街地整備の検討を進める【**施策図《③》拡充**】

〈道路・交通〉

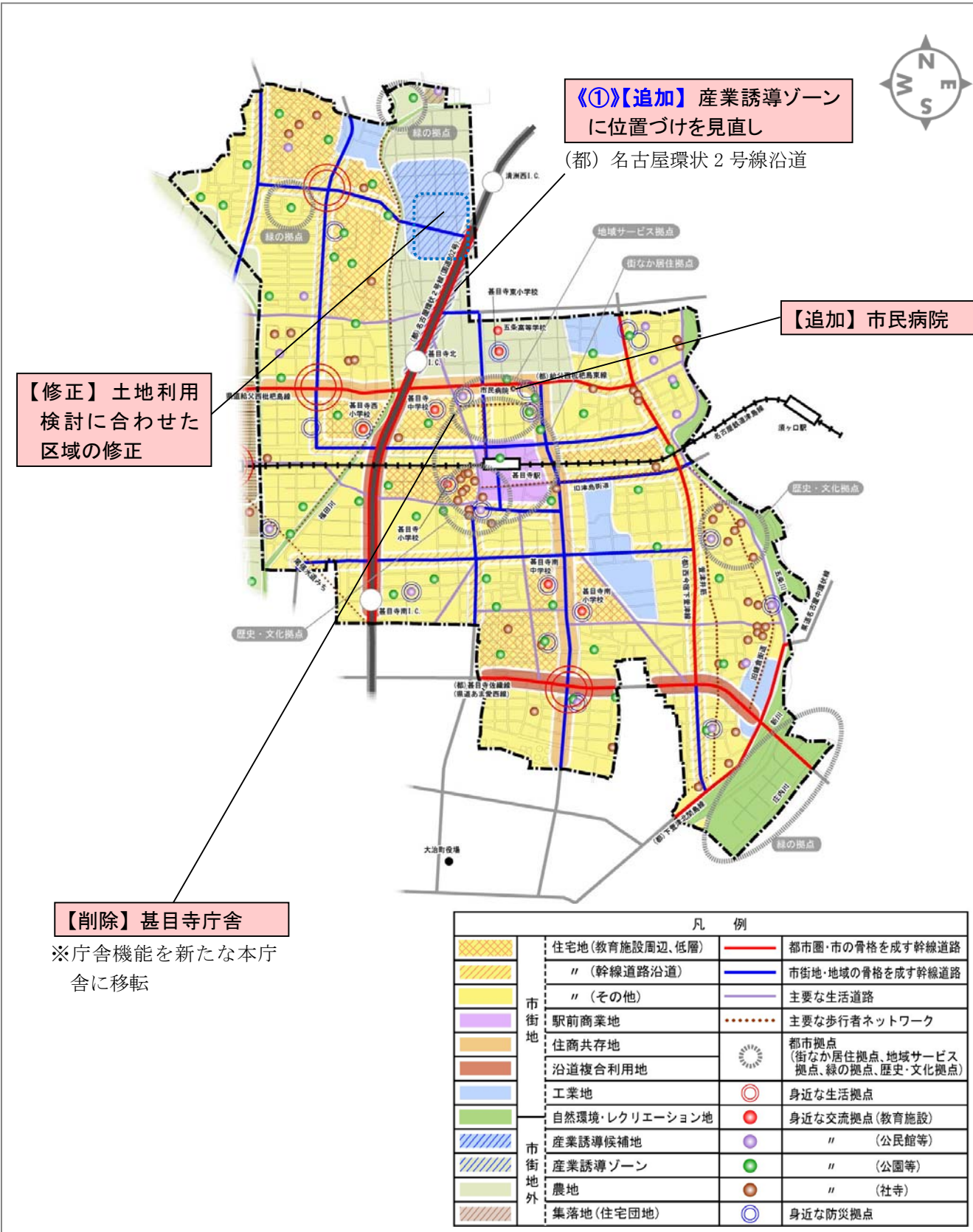
- ❖ 甚目寺駅から甚目寺観音や萱津神社等の観光スポット、市民病院など、市内各所へのアクセス性の向上を図る【**施策図《④》追加**】
- ❖ 国道302号4車線化の検討を加速させ、市内道路混雑の解消を図る【**施策図《⑤》拡充**】
- ❖ スーパーマーケットや医療機関などへの移動のしやすさや、手段の充実を図る【**施策図《⑥》追加**】
- ❖ 他の拠点との連携・移動を支えるための交通体系のあり方やその手段の検討を進める【**施策図《⑦》追加**】

〈拠点（防災）〉

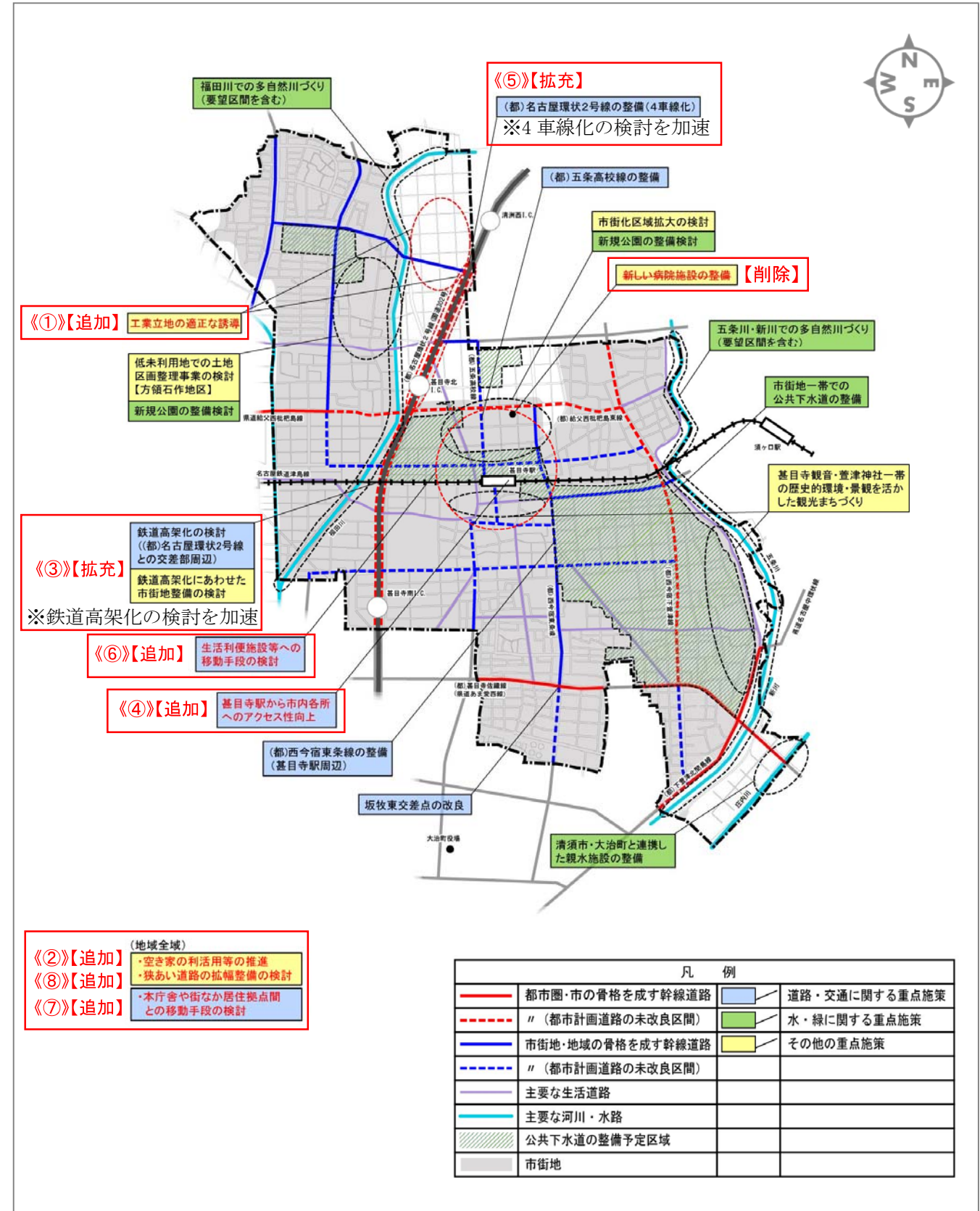
- ❖ 大規模地震に備えた密集市街地等における狭あい道路の拡幅整備を検討する【**施策図《⑧》追加**】

● 前頁で整理した東部地域の見直しのポイント等に基づき、地域構造図及び重点施策図を更新します。

1) 地域構造図(変更案)



2) 重点施策図(変更案)



地域別構想の見直し(素案)について

西部地域

1. 西部地域の期間前半の検証

1) 地域の概況

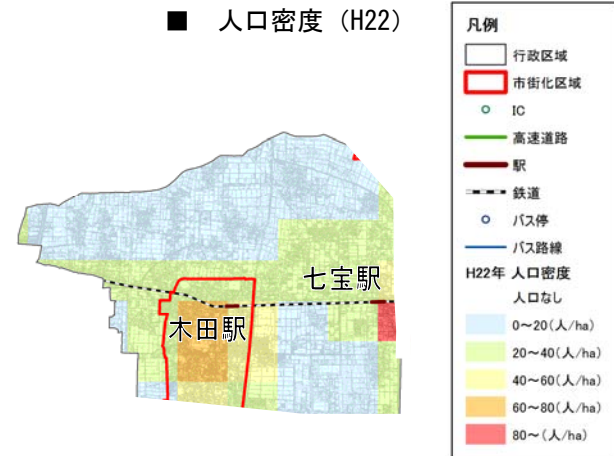
①人口・人口密度

- 西部地域の人口は5年間(H22~H26)で約140人減少しているが、市街化区域内では約170人増加している。
- 人口密度は、木田駅周辺が高く、60人/ha以上となっている。七宝駅周辺についても、市街化調整区域ではあるが、比較的高い人口密度が維持されている。

■ 人口(西部地域)

参照データ	住民基本台帳	
	H22.4	H27.3
西部全体	23,609	23,468
市街化区域内	9,263	9,432
市街化調整区域内	14,346	14,036

※平成27年度の国勢調査結果(小地域集計結果)は、未公表のため、住民基本台帳人口で比較します。



資料: H22 国勢調査

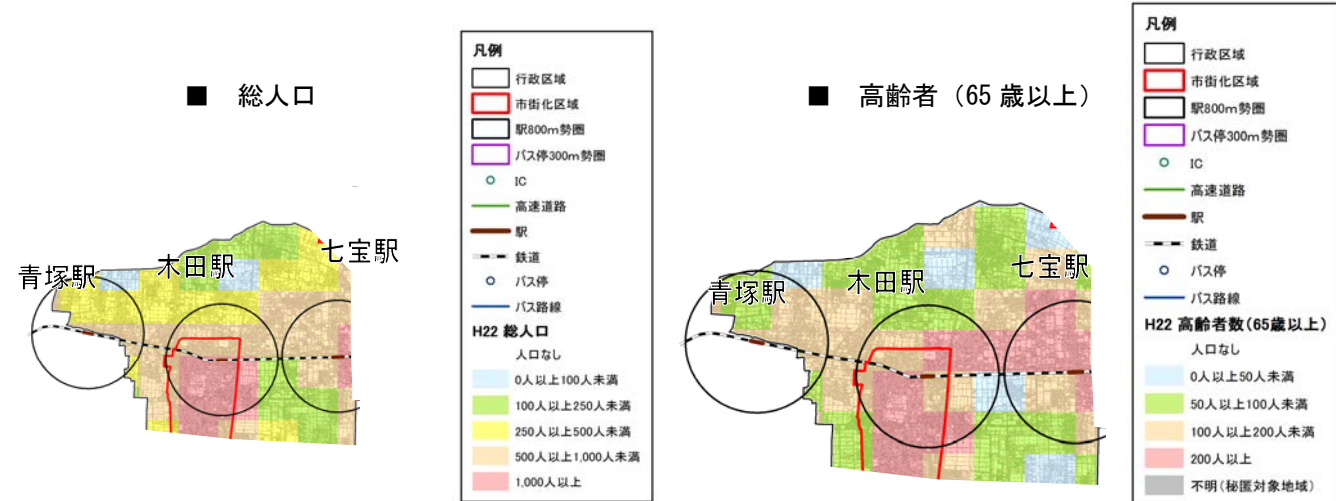
②公共交通カバー率

- 西部地域の名鉄津島線による人口カバー率・高齢者カバー率は54%で、本市平均(名鉄津島線・名鉄バス)と比較すると、人口カバー率(本市平均: 32%)は高い傾向にあるが、高齢者カバー率(本市平均: 59%)は低い状況である。

■ 公共交通人口カバー率(西部地域)

人口	西部地域メッシュ人口	公共交通徒歩圏人口	人口カバー率
総人口	27,767人	14,857人	54%
高齢者(65歳以上)	6,359人	3,433人	54%

※メッシュ人口のため、西部地域の人口とは合致しない。
 ※公共交通徒歩圏は鉄道駅から800m、バス停から300mの圏域。



資料: H22 国勢調査

資料: H22 国勢調査

2) 市民アンケート結果

- 現在のまちづくりについて、不満度が最も高い事項は「商店街の活性化などの商業の振興」で、次いで「下水道・排水路の整備」、「企業誘致などの産業の振興」となっている。
- 今後のまちづくりについて、最も重要と考える事項は「地震や水害などの防災対策」で、次いで、「下水道・排水路の整備」、「介護サービスや生きがいづくりなどの高齢者福祉」となっている。

平成28年度調査結果

[現在のまちづくりについて]

不満度 上位5つ	
1	商店街の活性化などの商業の振興
2	下水道・排水路の整備
3	企業誘致などの産業の振興
4	生活道路の整備
5	計画的な土地利用

[今後のまちづくりについて]

重要度 上位5つ	
1	地震や水害などの防災対策
2	下水道・排水路の整備
3	介護サービスや生きがいづくりなどの高齢者福祉
4	商店街の活性化などの商業の振興
5	企業誘致などの産業の振興

資料: あま市「あま市総合計画後期基本計画策定等に関するアンケート調査結果報告書」H28.8、問10、問11の結果
 注: 美和地区居住者の回答結果

3) 期間前半の主な重点施策の実施状況

■ 木田駅前線

(H25.3 一部区間供用開始)



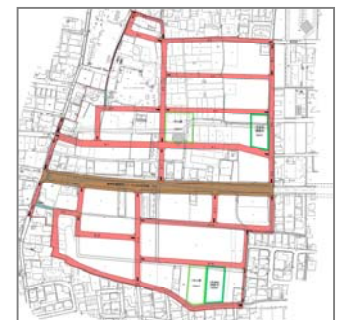
■ 木田駅前線地下式調整池

(H24.5 完成)



■ 木田郷南土地区画整理事業

(H26~H31)



- 木田駅前線や木田駅前線地下式調整池の整備、木田郷南土地区画整理事業の事業推進、下水道供用区域の拡大整備等を実施することで、木田駅を中心とした「街なか居住拠点」やその周辺において、駅アクセス機能の向上や排水施設環境の強化が進んでいる。

2. 期間前半の地域づくりの評価と後半の地域づくりの重点

西部地域づくりの基本方向である「木田駅・七宝駅を中心とした利便性の高い住環境の形成」に向けて、木田駅前線の整備など、期間前半に取り組んできた施策の実施効果により、「街なか居住拠点」を中心に市街化区域内人口が増加傾向を示しており、都市機能の維持のための人口密度が保たれています。

鉄道駅（七宝駅・木田駅等）による高齢者カバー率は低い状況で、今後も高齢化が進展することから、駅アクセス性の向上や駅周辺への宅地集積の誘導が課題となっています。

七宝駅周辺では、鉄道駅・道路の交通環境や生活サービス施設等の集積に支えられて、集落の形成や宅地開発が進んでいます。今後は、土地利用の計画的な規制・誘導を進め、居住環境の維持・向上による人口の定着や既存コミュニティの維持等を図っていく必要があります。

木田駅周辺の街なか居住拠点においては、にぎわい活力の創出のため、空き家（店舗）の利活用など、土地利用の流動化を図ることが特に重要となっています。また、市街地の狭あい道路等の解消や浸水被害軽減のための地下式調整池整備等を推進する必要があります。

3. 全体構想の見直し項目のうち、西部の地域別構想にも反映を要する事項

『拠点』

- 市域全体の安全安心と地域活力の創造を支える「防災・活力連携拠点」を追加

『土地利用』

- 農地との調和を図りつつ、開発の適正な規制・誘導を図る「居住環境維持・向上地」を追加
- 雇用機会の創出や適切な工業用地供給のための「産業誘導ゾーン」（工業立地）の追加

『道路・交通』

将来交通ネットワーク

- リニア開業等を見据えた鉄道駅から市内各所へのアクセス性の向上
- あま市の位置的中心となる本庁舎へのアクセス性の向上

市民生活を支える公共交通体系

- 高齢化の進展等を見据えた公共交通体系（生活）の確保
- 「街なか居住拠点」「防災・活力連携拠点」間を結ぶ公共交通の確保

『防災』

- 大規模地震対策、都市防災機能の強化
- 防災において中枢機能を果たす本庁舎を追加

4. 主な方針の見直し内容の検討等

「期間前半の西部地域づくりの評価と後半の地域づくりの重点」、「全体構想の見直し項目のうち、西部の地域別構想にも反映を要する事項」を踏まえ、地域別構想に位置付けられた方針・重点施策の推進を引き続き進めるとともに、以下の拡充・追加を行います。

■ 拡充・追加するポイント ※マスタープランの構成に従って整理

〈土地利用〉

- ❖ （都）西尾張中央道、（都）甚目寺佐織線沿道の位置付けを見直し、工業や流通業務施設の計画的で適正な誘導を図る【構造図《①》追加】【施策図《①》追加】
- ❖ 空き家の利活用等を推進し、市街化区域内での土地利用の流動化を図る【施策図《②》追加】
- ❖ 本庁舎及び七宝駅周辺における鉄道や道路等の都市基盤施設の整備の推進とともに、居住環境の維持・向上に向けた取り組みの検討を進める【構造図《②》追加】【施策図《③》拡充】

〈道路・交通〉

- ❖ 木田駅・七宝駅から蓮華寺や七宝焼アートヴィレッジ等の観光スポットなど、市内各所へのアクセス性の向上を図る【施策図《④》追加】
- ❖ スーパーマーケットや医療機関などへの移動のしやすさや、手段の充実を図る【施策図《⑤》追加】
- ❖ 他の拠点との連携・移動を支えるための交通体系のあり方やその手段の検討を進める【施策図《⑥》追加】
- ❖ 七宝駅や本庁舎へのアクセス性の向上や、（都）七宝蟹江線の立体交差化に向けた検討を進める【施策図《⑦》拡充、《⑧》追加】

〈拠点（防災）〉

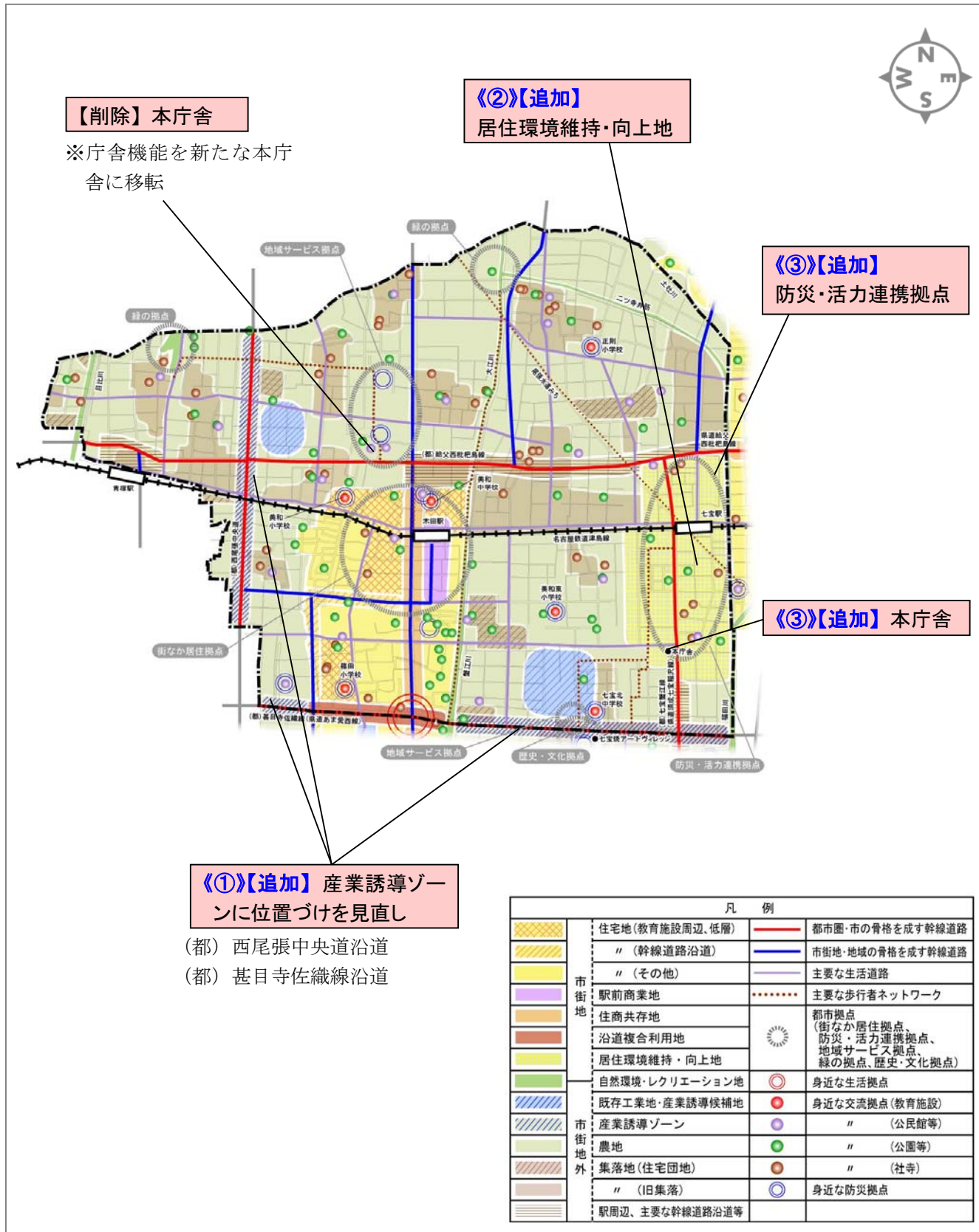
- ❖ 市域全体の安全安心と地域活力の創造を支えるとともに、住みやすい地域づくりを進める拠点を本庁舎及び七宝駅周辺に配置する【構造図《③》追加】
- ❖ 防災中枢機能を担う本庁舎を整備する【施策図《⑨》追加】
- ❖ 大規模地震に備えた密集市街地等における狭あい道路の拡幅整備を検討する【施策図《⑩》追加】

地域別構想の見直し(素案)について

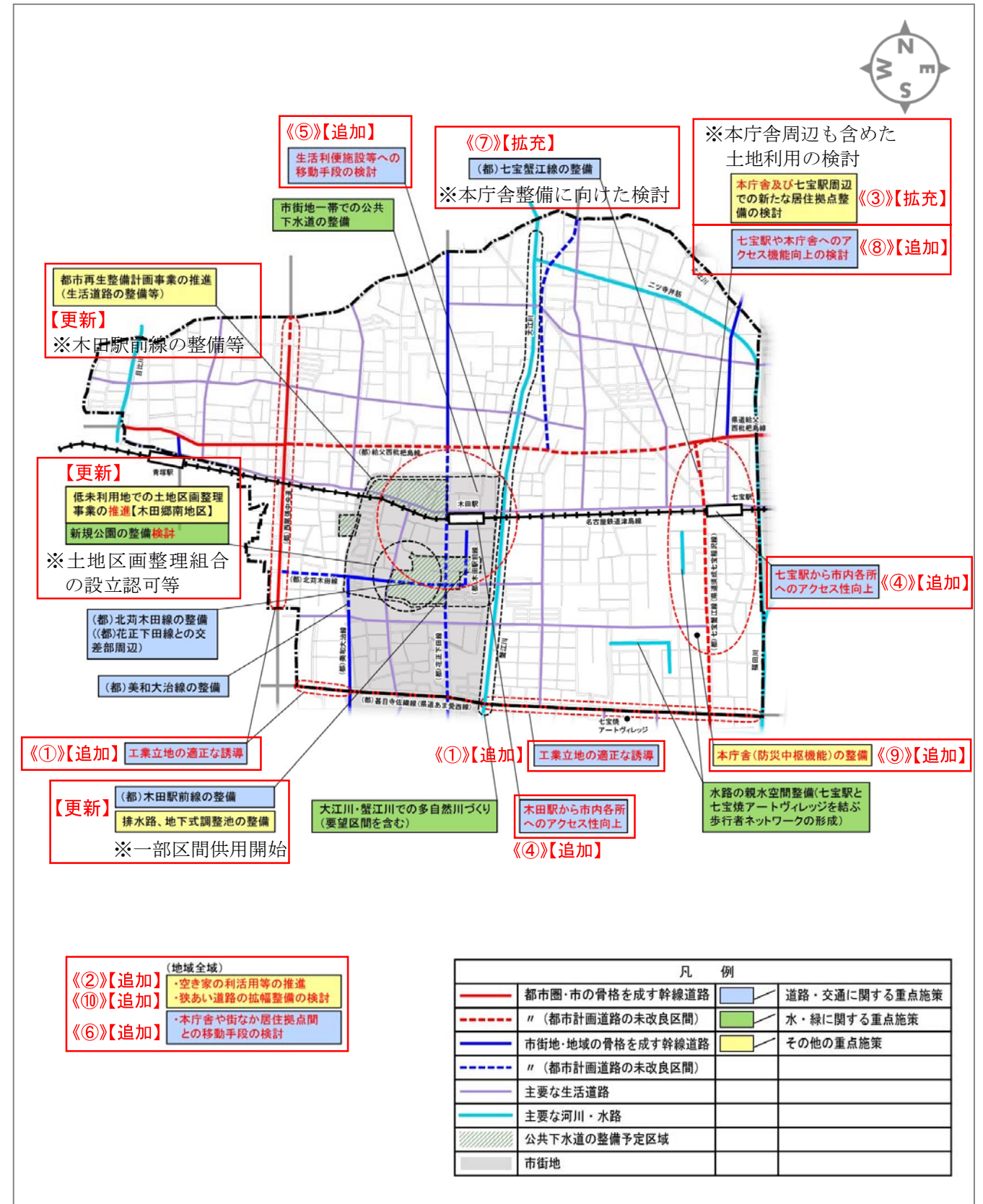
西部地域

● 前頁で整理した西部地域の見直しのポイント等に基づき、地域構造図及び重点施策図を更新します。

1) 地域構造図(変更案)



2) 重点施策図(変更案)



地域別構想の見直し(素案)について

南部地域

1. 南部地域の期間前半の検証

1) 地域の概況

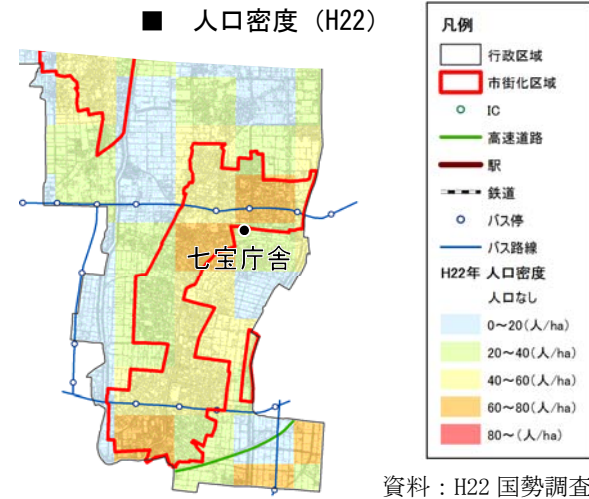
①人口・人口密度

- 南部地域の人口は5年間(H22~H26)で約540人減少しており、市街化区域内でも約270人減少している。
- 人口密度は、バス路線沿線を中心に概ね40人/ha以上を維持している。

■ 人口(南部地域)

参照データ	住民基本台帳	
	H22.4	H27.3
南部全体	24,126	23,581
市街化区域内	17,292	17,021
市街化調整区域内	6,834	6,560

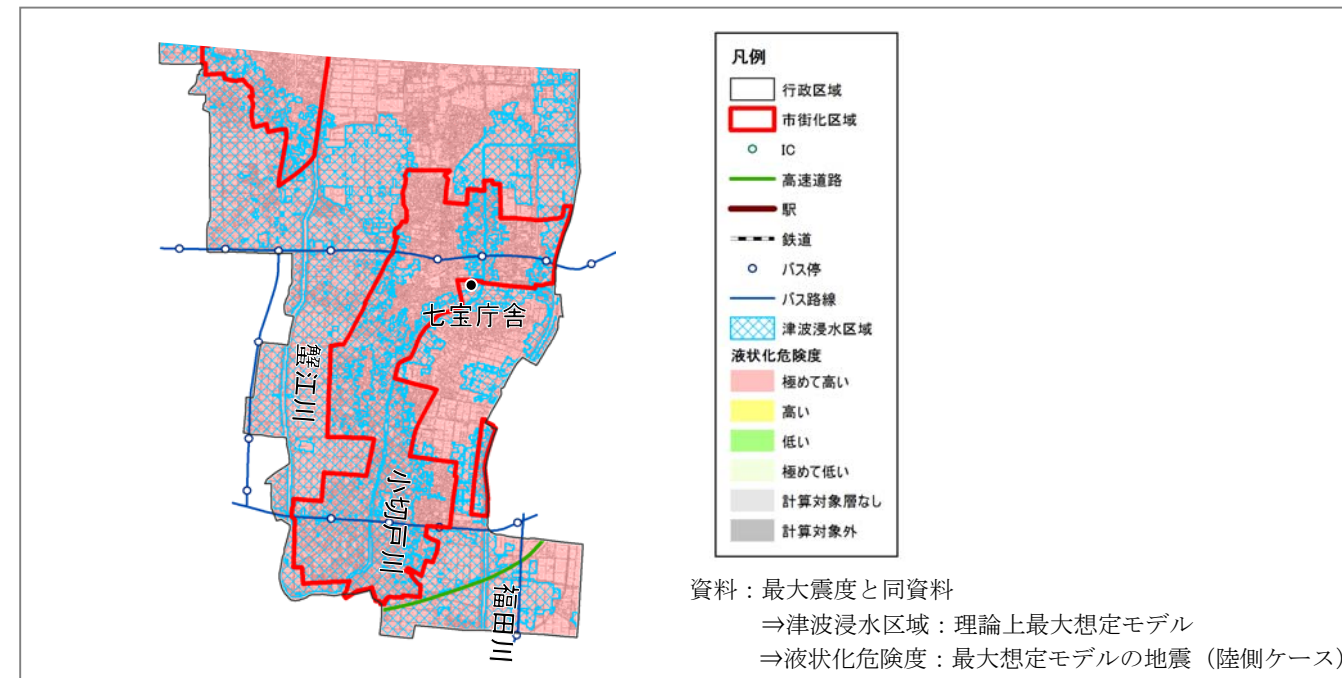
※平成27年度の国勢調査結果(小地域集計結果)は、未公表のため、住民基本台帳人口と比較します。



②津波浸水区域

- 蟹江川や小切戸川、福田川からその周辺にかけて津波浸水の被害が予測されている。
- 南部地域全域で、液状化危険度が極めて高い。

■ 津波浸水想定区域・液状化



2) 市民アンケート結果

- 現在のまちづくりについて、不満度が最も高い事項は「商店街の活性化などの商業の振興」で、次いで「公園・緑地の整備」、「企業誘致などの産業の振興」となっている。
- 今後のまちづくりについて、最も重要と考える事項は「地震や水害などの防災対策」で、次いで、「下水道・排水路の整備」、「鉄道やバスなどの公共交通機関」となっている。

平成28年度調査結果

[現在のまちづくりについて]

不満度 上位5つ	
1	商店街の活性化などの商業の振興
2	公園・緑地の整備
3	企業誘致などの産業の振興
4	駅前などの拠点整備
5	下水道・排水路の整備

[今後のまちづくりについて]

重要度 上位5つ	
1	地震や水害などの防災対策
2	下水道・排水路の整備
3	鉄道やバスなどの公共交通機関
4	交通安全・防犯などの安全対策
5	企業誘致などの産業の振興

資料：あま市「あま市総合計画後期基本計画策定等に関するアンケート調査結果報告書」H28.8、問10、問11の結果
 注：七宝地区居住者の回答結果

3) 期間前半の主な重点施策の実施状況

■名古屋津島バイパス

(H24.5 一部区間供用開始)



■安松鷹居線

(H26.3 一部区間供用開始)



■三角・柏田土地区画整理事業

(H26~H30)



- 名古屋津島線バイパスや安松鷹居線の整備、三角・柏田土地区画整理事業の事業推進、下水道供用区域の拡大整備等を実施することで、道路交通環境の向上や公共交通沿線での宅地化が進んでいる。

2. 期間前半の地域づくりの評価と後半の地域づくりの重点

南部地域づくりの基本方向である「新たな東西交通軸や、これを活かした利便性の高い住環境の形成」に向けて、名古屋津島線バイパスの整備など期間前半に取り組んできた施策の実施効果により、七宝庁舎北交差点周辺の街なか居住拠点内の名鉄バス沿線では、都市機能の維持のための人口密度が保たれています。

名古屋駅とを結ぶ2本のバス路線など東西交通軸が充実しており、その利便性から良好な住環境の形成が図られてきている一方で、七宝庁舎北交差点付近では、通過交通等による交通渋滞が発生し、その解消が大きな課題となっています。

前半期の人口動態からは、人口減少の傾向が見受けられます。そのため、今後は、バスの強みを活かした交通指向型まちづくりを進めるなど、人口密度の維持・誘導を強く意識した重点取り組みが必要になっています。

津波浸水の可能性が指摘されている南部地域では、河川整備の促進とともに、建物構造による対応やその他のソフト対策の検討を行うなど、地域住民の安全確保を図るための取り組みを進める必要があります。

3. 全体構想の見直し項目のうち、南部の地域別構想にも反映を要する事項

- 『土地利用』
 - 雇用機会の創出や適切な工業用地供給のための「産業誘導ゾーン」(工業立地)の追加
- 『道路・交通』
 - 将来交通ネットワーク
 - 名古屋高速鉄道6号線の延伸構想を見据えた交通まちづくりの促進
 - 市民生活を支える公共交通体系
 - 高齢化の進展等を見据えた公共交通体系(生活)の確保
 - 「街なか居住拠点」「防災・活力連携拠点」間を結ぶ公共交通の確保
- 『防災』
 - 大規模地震対策、都市防災機能の強化

4. 主な方針の見直し内容の検討等

「期間前半の南部地域づくりの評価と後半の地域づくりの重点」、「全体構想の見直し項目のうち、南部の地域別構想にも反映を要する事項」を踏まえ、地域別構想に位置付けられた主な重点施策の推進を引き続き進めるとともに、以下の拡充・追加を行います。

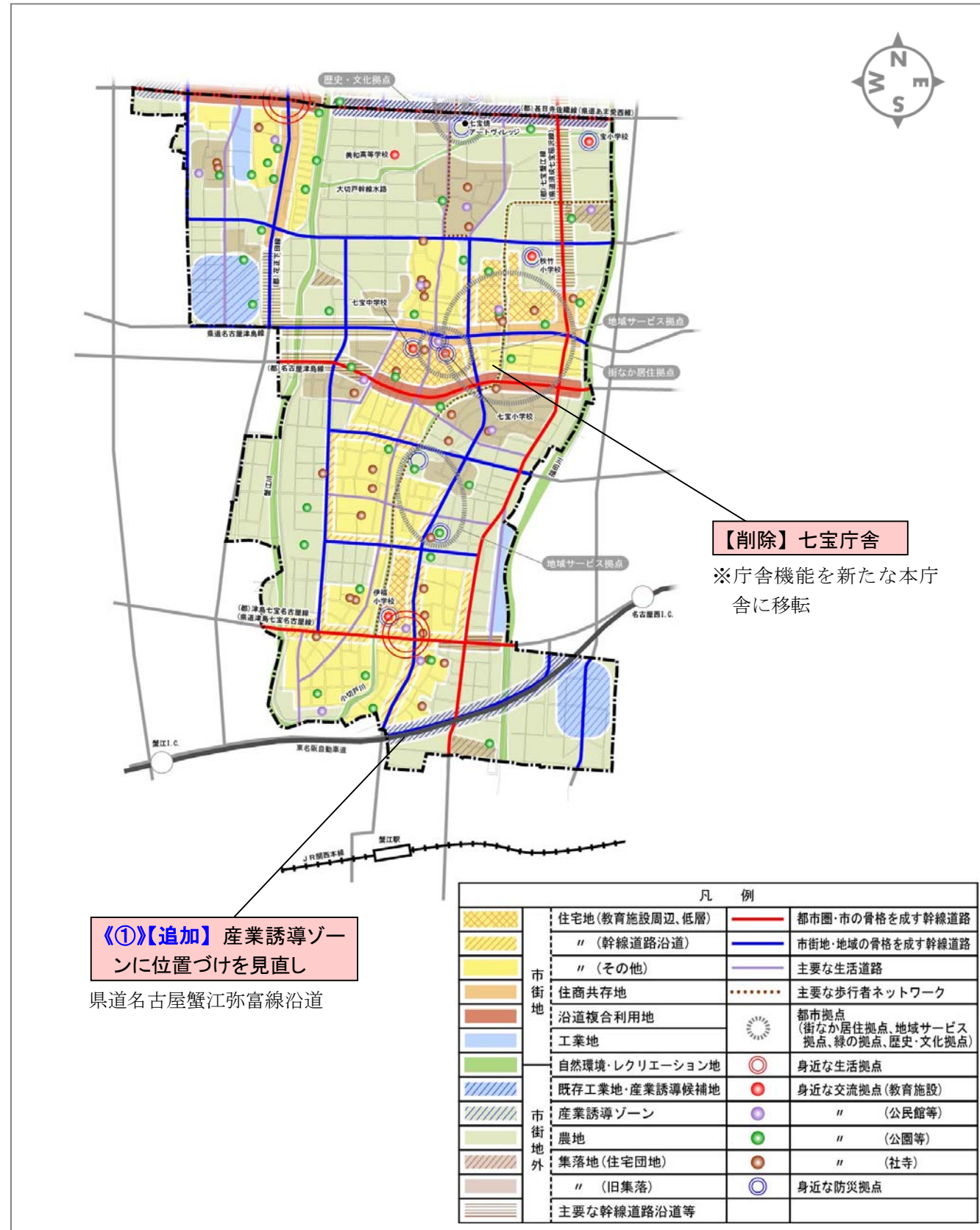
- 拡充・追加するポイント** ※マスタープランの構成に従って整理
- 〈土地利用〉
 - ❖ 県道名古屋蟹江弥富線沿道の位置付けを見直し、工業や流通業務施設の計画的で適正な誘導を図る【構造図《①》追加】【施策図《①》追加】
 - ❖ 空き家の利活用等を推進し、市街化区域内での土地利用の流動化を図る【施策図《②》追加】
 - ❖ 幹線バス路線沿線周辺では、公共交通利用者の増加につなげていくための市街地整備など、新たなまちづくりの検討を進める【施策図《③》拡充】
 - 〈道路・交通〉
 - ❖ バス路線の道路混雑解消に向けて、(都)名古屋津島線の早期整備の促進を図る【施策図《④》拡充】
 - ❖ 東西交通軸の整備効果を市全域に広げていくため、(都)安松鷹居線や(都)七宝蟹江線など南北交通軸の強化を図る【施策図《⑤》《⑥》拡充】
 - ❖ スーパーマーケットや医療機関などへの移動のしやすさや、手段の充実を図る【施策図《⑦》追加】
 - ❖ 他の拠点との連携・移動を支えるための交通体系のあり方やその手段の検討を進める【施策図《⑧》追加】
 - 〈拠点(防災)〉
 - ❖ 大規模地震に備えた密集市街地等における狭あい道路の拡幅整備を検討する【施策図《⑨》追加】
 - ❖ 津波浸水想定区域での防災対策(ソフト)の取組みを検討する【施策図《⑩》追加】

地域別構想の見直し(素案)について

南部地域

● 前頁で整理した南部地域の見直しのポイント等に基づき、地域構造図及び重点施策図を更新します。

1) 地域構造図(変更案)



2) 重点施策図(変更案)

